



マグニチュードと震度の違い

「マグニチュード」は地震そのものの大きさ、「震度」は揺れの強さを表します。したがって、マグニチュードの値が同じであっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。



1944年12月7日、三重県沿岸でマグニチュード7.9の昭和東南海地震が発生し、愛知県においても大きな被害が発生しました。そのわずか37日後の1945年1月13日午前3時38分に、三河湾を震源とした最大震度7、マグニチュード6.8の内陸直下型地震が発生しました。これが三河地震と呼ばれる地震です。岡崎平野南部から三ヶ根山地周辺にかけて起きた強い揺れにより、2306人が亡くなり、各地に甚大な被害をもたらしました。一色町の宗徳寺では、この地震による痕跡として、深溝断層に沿ってできた地割れを見ることができま



南海トラフとは

駿河湾から九州東方沖にかけての海底につらなる、溝状の地形を形成する水深4,000メートルの区域。フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈みこむ境界にあり、活動が活発な活断層です。



迫りくる南海トラフ地震

南海トラフ地震が発生した場合、本市では「最大震度7、最大津波高5.1メートル、津波到達時間55分後」という想定が出ています。南海トラフ地震で想定される震源域は、東は静岡県、西は宮崎県沖にかけての範囲です。現時点において、南海トラフ沿いで大きな地震が発生する可能性が高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。しかし、今後30年以内に、南海トラフ沿いでマグニチュード8〜9クラスの大きな地震が発生する確率は70〜80%とされています。また、1944年の昭和東南海地震、1946年の昭和南海地震の発生から約80年が経過し、いつ地震が発生してもおかしくない状態です。

